



なか むら まさ はる
中村 勝春

けん とく らぶ
県都クラブ

救急医療体制への取り組みについて

問 救急搬送者の約半数が軽傷患者であることを受け、平成23年10月から、救急・健康相談ダイヤル24の設置など、改善に向けた努力に一定の評価はしている。しかしながら、救急搬送の現状は年々増加しており、救急・健康相談ダイヤル24の効果があらわれていない。救急車の適正利用を図るために導入された当該システムの検証と効果について問う。

答 救急・健康相談ダイヤル24は、動き出せない救急車問題への対応策の一つとして運用を開始し、1年間で14,856件の相談があった。このうち、家庭での応急処置や看護をアドバイスしたものが1,705件、平日の一般外来への受診勧奨が586件、平日の再受診勧奨が203件あり、このことにより救急出動を減らすことにつながったケースもあったと想像できる。しかし、救急搬送に関する実数を見ると、救急搬送人員や軽傷者は引き続き大きく増加しており、この取り組みだけでは、救急車問題は解決できないと考えている。そこで、救急医療及び地域医療に係る業務の充実を目的とした組織体制の強化のほか、救急医療のあり方を検討するため、具体策を現在検討している。

●その他の質疑・質問●

○集中豪雨のたびに床下、床上浸水している地域があるが根本的な対策を

○空き家対策について

・地震時の家屋の倒壊、台風や突風による建築材の飛散に対する対応は

・空き家対策条例の制定を

○郊外部における開発などの余力地について、具体的にどのように進められるのか など



▲少しでも早く病院への搬送を（搬送訓練の様子）



つじ みつこ
辻 美津子

しみんく らぶ
市民クラブ

ポルタひさい問題について

問 今回、市民の皆さんからの様々な意見を集約して、ポルタひさいの再生に向けた久居駅周辺地区まちづくりビジョンがプランA及びBというかたちで提示された。

ポルタひさいの資産を市が取得し、一日も早く有効活用を図っていくためには時間的猶予がない中で、まちづくりビジョンについて、いつどのように最終決定をしていくのか。

答 津市がポルタひさいの土地、建物を取得し、損害担保契約の履行を回避するという手法を取らざるを得ないことについては、おおむね理解をいただいていると感じているが、取得後の活用方法については、いろいろな意見がある。

すべての方に満足いただける解決策にはならないかもしれないが、ポルタひさい問題を解決し、久居駅周辺地区のまちづくりが新たな歩みを始めることが副都市核・久居の発展につながるものと確信している。ポルタひさいを経済活動や生活の場にしている皆さん、地域の関係団体の皆さん、また広く市民の皆さんのご意見を伺った上で、平成25年度の予算に反映できるよう、議会での議論を踏まえて取り組んでいきたい。

●その他の質疑・質問●

○津市観光振興ビジョンについて

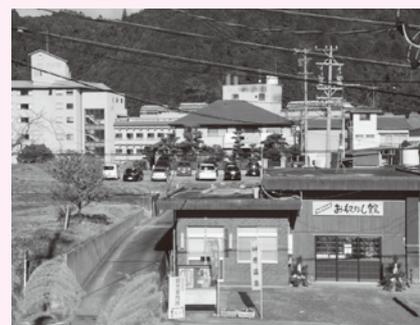
・榊原温泉地域振興を誰が核となり進めていくのか

・地域アドバイザーの設置を

○県道一志出家線の中河原橋の架け替え工事の進捗状況は

○市内遊休地を活用した太陽光発電（メガソーラー）の導入への取り組みについて

・相談窓口の設置を など



▲日本三大名泉のひとつである榊原温泉の振興を